

詩編(詩篇)46 編の表記の違い

口語訳 00 聖歌隊の指揮者によって女の声のしらべにあわせてうたわせた
コラの子の歌

01 神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。

02 このゆえに、たとい地は変り、／山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。

03 たといその水は鳴りとどろき、あわだつとも、／そのさわぎによって山は震え動くとも、／われらは恐れない。〔セラ ←「休息、安息」を意味する音楽用語

04 一つの川がある。その流れは神の都を喜ばせ、／いと高き者の聖なるすまいを喜ばせる。

05 神がその中におられるので、都はゆるがない。神は朝はやく、これを助けられる。

06 もろもろの民は騒ぎたち、もろもろの国は揺れ動く、／神がその声を出されると地は溶ける。

07 万軍の主はわれらと共におられる、／ヤコブの神はわれらの避け所である。〔セラ

08 来て、主のみわざを見よ、／主は驚くべきことを地に行われた。

09 主は地のはてまでも戦いをやめさせ、／弓を折り、やりを断ち、戦車を火で焼かれる。

10 「静まって、わたしこそ神であることを知れ。わたしはもろもろの国民のうちにあがめられ、／全地にあがめられる」。

→文語訳：「汝等しづまりて我の神たるをしれ われはもろもろの國のうちに崇められ全地にあがめらるべし」

→KJB 欽定訳：Be still, and know that I am God:

I will be exalted among the heathen, I will be exalted in the earth.

11 万軍の主はわれらと共におられる、／ヤコブの神はわれらの避け所である。〔セラ

新共同訳 01【指揮者に合わせて。コラの子の詩。アラモト調。歌。】

02 神はわたしたちの避けどころ、わたしたちの砦。苦難のとき、必ずそこにいまして助けてくださる。

03 わたしたちは決して恐れない／地が姿を変え／山々が揺らいで海の中に移るとも

04 海の水が騒ぎ、沸き返り／その高ぶるさまに山々が震えるとも。〔セラ

05 大河とその流れは、神の都に喜びを与える／いと高き神のいます聖所に。

06 神はその中にいまし、都は揺らぐことがない。夜明けとともに、神は助けをお与えになる。

07 すべての民は騒ぎ、国々は揺らぐ。神が御声を出されると、地は溶け去る。

08 万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。〔セラ

09 主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。主はこの地を圧倒される。

10 地の果てまで、戦いを断ち／弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる。

11 「力を捨てよ、知れ／わたしは神。国々にあがめられ、この地であがめられる。」

→聖書協会共同訳：「静まれ、私こそが神であると知れ。／国々に崇められ、全地において崇められる。」

12 万軍の主はわたしたちと共にいます。ヤコブの神はわたしたちの砦の塔。〔セラ

聖書協会共同訳 01 指揮者によって。コラの子の詩。アラモト調。歌。

02 神は我らの逃れ場、我らの力。／苦難の時の傍らの助け。

03 それゆえ私たちは恐れない／地が揺らぎ／山々が崩れ落ち、海の中に移るとも。

04 その水が騒ぎ、沸き返り／その高ぶる様に山々が震えるとも。〔セラ

05 川とその流れは神の都に／いと高き方の聖なる住まいに喜びを与える。

06 神はその中におられ、都が揺らぐことはない。／夜明けとともに、神は助けをお与えになる。

07 すべての民は騒ぎ、もろもろの王国は揺らぐ。／神が声を出されると、地は溶け去る。

08 万軍の主は私たちと共に。／ヤコブの神は我らの砦。〔セラ

09 来て、主の業を仰ぎ見よ。／主は驚くべきことをこの地に行われる。

10 地の果てまで、戦いをやめさせ／弓を砕き、槍を折り、戦車を焼き払われる。

11 「静まれ、私こそが神であると知れ。／国々に崇められ、全地において崇められる。」

12 万軍の主は私たちと共に。／ヤコブの神は我らの砦。〔セラ